

岡松学習塾 創立五十周年を迎えて

昭和四十一年、弘治小学校の一年の担任の先生の勧めで、母が岡松学習塾を自宅で開校した。

私の友人十名で船出した塾は皆様のロコミで塾生も増えた。河内長野へのハイキング、仁徳天皇陵前での写生、大阪市の施設「海浜荘」で親子一泊移住、私が小四生の時、父が「サニーズ」というソフボールチームを結成し、ユニフォーム一式は塾生有志に無償で差し上げ、母がユニフォームのデザインとサニーズ応援歌を作った。初試合から小五・六年生のチームに勝利し、二年半のチーム成績は四十九勝一敗だった。私は二番セカンドで背番号四をつけて大した活躍もしなかった。チームの主軸は背番号一をつけた私の友人で、頭が良くて男前、性格も男前、運動神経抜群で字も達筆、絵も歌も麻雀も上手で、今中の女の先生からは、今中の高橋英樹と呼ばれていた。住吉高校三年の夏の全国高校野球大阪大会で、彼は四番キャッチャーとして活躍し、ベスト八まで勝ち進んだが、PL学園に惜敗した。大学進学後も野球を続け、今も教育関係の仕事で活躍しています。塾の生徒数が五十名を超えた頃、弘治小学校の運動場を貸

し切り塾の運動会を行い、その際に塾歌「みんなの宝」を合唱した。
我が塾は文武両道の塾として文化祭（絵画・書道・作文・詩・自由
研究・合唱）を開催し、保護者の方に観覧いただいた。その頃より
月一回の保護者会の開催、年三回の塾の保護者・塾講師との懇親会
を行い、親睦をはかった。

私が大学一回生になり、母と従兄と三人で中学生の学習指導を行
った。毎日の塾での学習指導内容、今後の課題や学校や塾、五ツ木
の模擬テスト結果などを学習ノートに記載した。

大学二回生の頃、母の教え子の塾生が春の選抜・夏の全国高校野
球選手権大会に、天理高校のレギュラーとして出場した。塾でバス
二台チャーターし、応援旗と応援歌を作り甲子園球場で私と母と塾
生、塾の保護者が応援に駆けつけた。春の選抜で彼は五番ファース
トとしてレギュラー出場したが、先発ピッチャーが三連続四球無死
満塁で彼は急遽マウンドにあがりピンチを切り抜けた。夏の大会で
は5番センターとして先発出場し、一回戦は日大三高に勝利したが、
二回戦で涙を飲んだ。塾生の事を語れば一人一人に歴史があり語り
尽くす事ができません。全地球上の何十億人の中から縁あって学習
を通じて巡りあえた喜び、彼らから数多くの事を学び感動を与えて

いただきました。学習面に関していえば小五生に入塾した時は、まじめな生徒でしか印象のなかった塾生が中学生になってから頭角を表し、中三の模擬テストに於いて常に全受験生の中で百番以内の成績を残し、余裕で清風南海併願、天王寺高校に合格した。天王寺高校一年の中間テストでいきなりの学年トップの成績を残し、現役で京大工学部に合格した。

彼の勉強法を間近に見ていると、わからなければわかるまで勉強する。わかるようになれば完璧にできるまで勉強を重ねる。フィギュアスケート金メダリストの羽生結弦選手のような情熱と、緻密に先を読む冷静な判断力と殺気だった集中力と柔軟性の羽生善治名人（史上初の七冠王の将棋棋士）を兼ね備えており、私が中高生の頃適当に学習していたため高校大学とも志望校に不合格だった事を痛感し、受験するからには常に満点を目ざす。そうすれば必ず合格すると確信したおかげで行政書士試験も数学検定一級試験も短期間集中で一発合格した。

中三の夏入塾し、成績向上し、今宮高校を経て大阪府立大に合格し塾講師と四年間私の片腕となって全力投球してくれ、お互いの結婚式には共にスピーチした間柄で、私は彼の人間性が大好きで私の

大切な友人だと思っています。

今年の一月二月に平成四年度卒業生が我が家へ顔を見せにきてくれた。私はまだ現役で小六から高三生まで一人で教えていることに驚いていた。この学年はバランスがよく学習差もあまりなかった。

模擬テストに於いても鶴中五名中常に岡松塾生が一位から五位を独占していた。今中も一位・二位・五位から十位以内に入っていた。

彼らは主に天王寺・住吉高校に進学し、高校でも努力を重ね、京大大学院を筆頭に、一流企業の研究者・技術者、教育・医療関係等に従事され、日本のために役立ちたい、子どもたちのために理科の楽しさを伝えたい。不思議を持つこと、それがわかった時の喜びを実際に実験して確かめてもらいたい。

彼らは高い志をもって知的な社会人として立派に生きていることを実感しました。

なぜ勉強しなければならないと聞かれたら、必ず私は太宰治の「正義と微笑」の一節を引用します。『代数や幾何の勉強なんて学校を卒業すれば何の役にも立たないと思っている人もいるが大きな間違いだ。日常生活に直接役に立たない勉強こそが将来の君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強してけろ

りと忘れてもいいんだ。大切なのはカルチベートされる事だ。カルチアというのは、公式や単語をたくさん覚えることではなくて、心を広く持つという事なんだ。学問なんか覚えると同時に忘れてもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底にひとつかみの砂金が残っているものだ。』

私は学習塾経営指導と行政書士という仕事をしている中で、子どもから高齢者まで、国籍を問わず接している。いろんな人たちから、より多くの知恵や感動をいただき感謝しております。これからも自分自身との交わり、親族との交わり、社会との交わりを密にして、志半ばにして亡くなった父、妻をはじめとする親族、友人、塾生、そして多くの人々の分まで精一杯生き抜く所存です。平和で争いのない世界を目ざして、岡松学習塾五十周年も通過点として、新たな出会いを求めて走り続けてまいります。

岡松 信志